

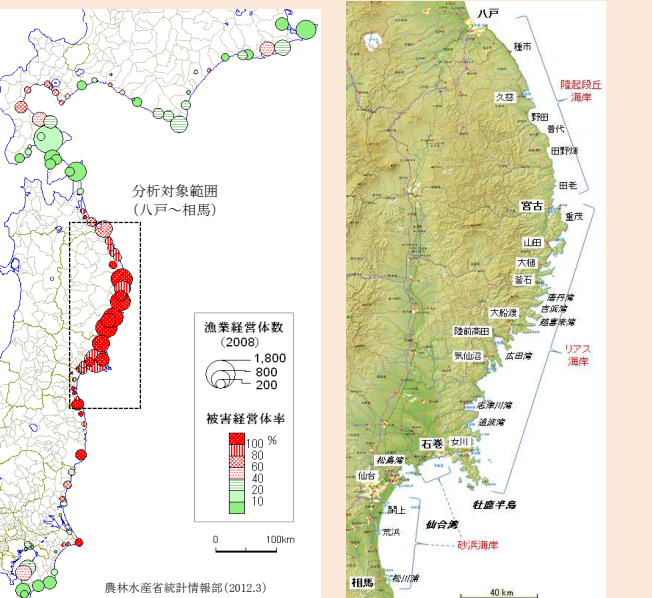
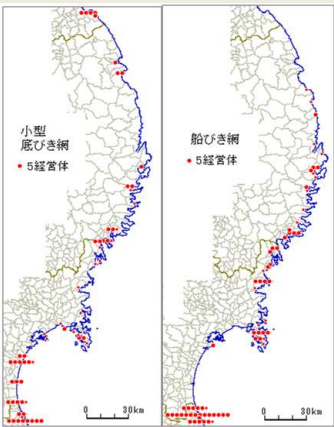
漁業センサスによる三陸漁業の地域性分析 -- 復興への基礎資料として --

高野 岳彦 (東北学院大)

3.11大津波で壊滅的被害となった三陸沿岸を中心とする東北の太平洋沿岸の水産地域は、2年すぎた現在、復旧から復興への取り組みが進んでいる。各種報道によると、その復興プロセスは、漁協の指導力が目立つ岩手県と有志漁民の共同化による取り組みが目立つ宮城県という特徴が鮮明になってきている。そもそも漁業の復興プロセスは、震災前の漁業形態や就業構造に規定されるため、その地理学的理解には震災前の地域性の把握が必須と考える。本発表では、2008漁業センサスを主に用いて、三陸沿岸を中心とする激甚被災地域の漁業の特性を分析し、図化した結果を提示する。末尾の主成分分析による地域類型化の詳細と、その復興プロセスへの含意は、発表要旨集に記したので、ご参照いただければ幸いである。

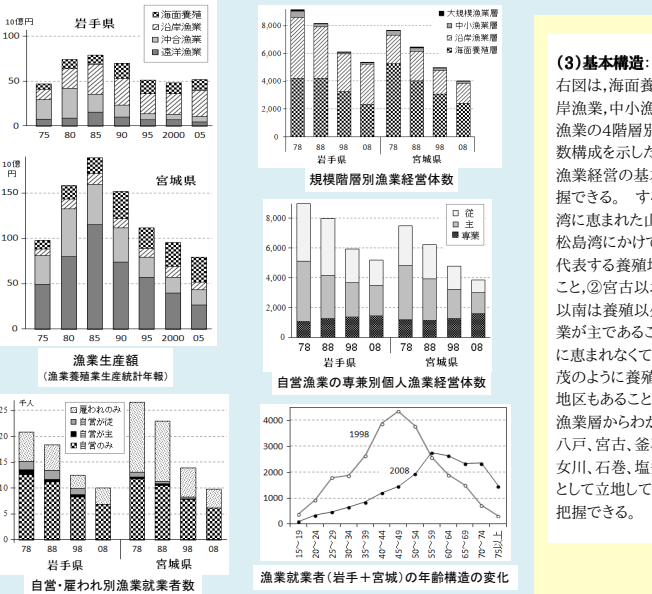
(4)沿岸漁業:
養殖以外の沿岸漁業は多様である。しかし主業となる漁業種は限られ、小型底曳網、大型定置網、潜水器漁業などが主業となることが多い。地域性もあり、岩手県では小型定置網、福島県では船曳網と刺網が主業とされることが多い。
各漁業種別では、曳き網系は、大陸棚の広い八戸沖と仙台湾沖が多く、リアス海岸部では延縄や刺網が多い。
また岩手県北には大型定置網が多く、宮城県で小型定置網が多い。
採貝採藻は、沿岸漁民のボーナス的位置づけであるが、これを主業とする経営体も岩手県北の種市海岸、宮古湾、岩手県南端の広田湾では少なくない。

沿岸漁業の種類別経営体数	主とする漁業種類			宮んだ漁業種類		
	岩手	宮城	福島	岩手	宮城	福島
小型底びき網	5	75	81	80	121	129
船びき網	29	31	163	79	105	242
その他の刺網	311	474	175	868	1,013	308
大型定置網	46	16		48	19	
小型定置網	48	108	4	77	242	10
その他の網漁業	97	50		320	261	
その他のええ縄	137	19	16	489	48	39
沿岸いか釣り	70	35		176	74	
ひき縄釣り	1	4	3	35	16	11
その他の釣り	62	27	48	516	119	139
小型採貝	2			2		
潜水器漁業	1	13	21	4	15	41
採貝・採藻	1,654	502	25	4,789	2,517	119
その他の漁業	488	186	79	4,822	1,108	230
	5,313	4,006	743	5,313	4,006	743

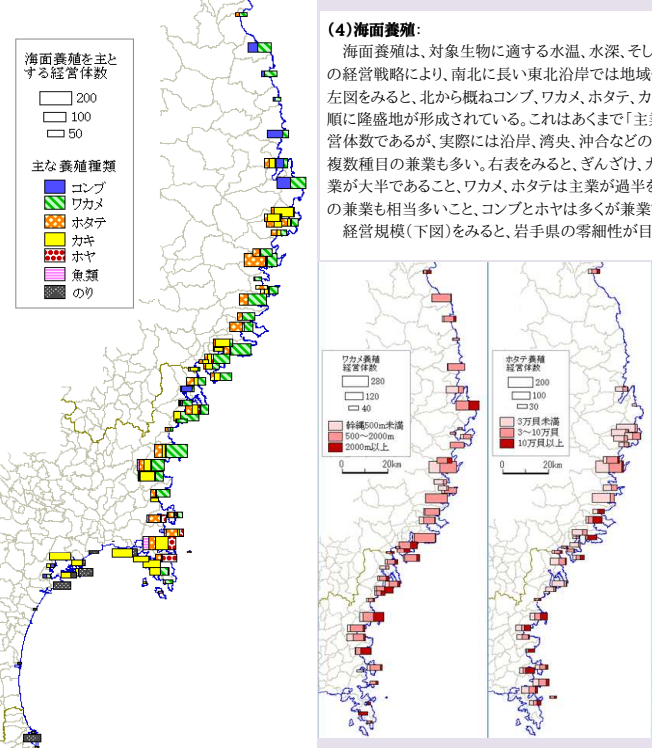
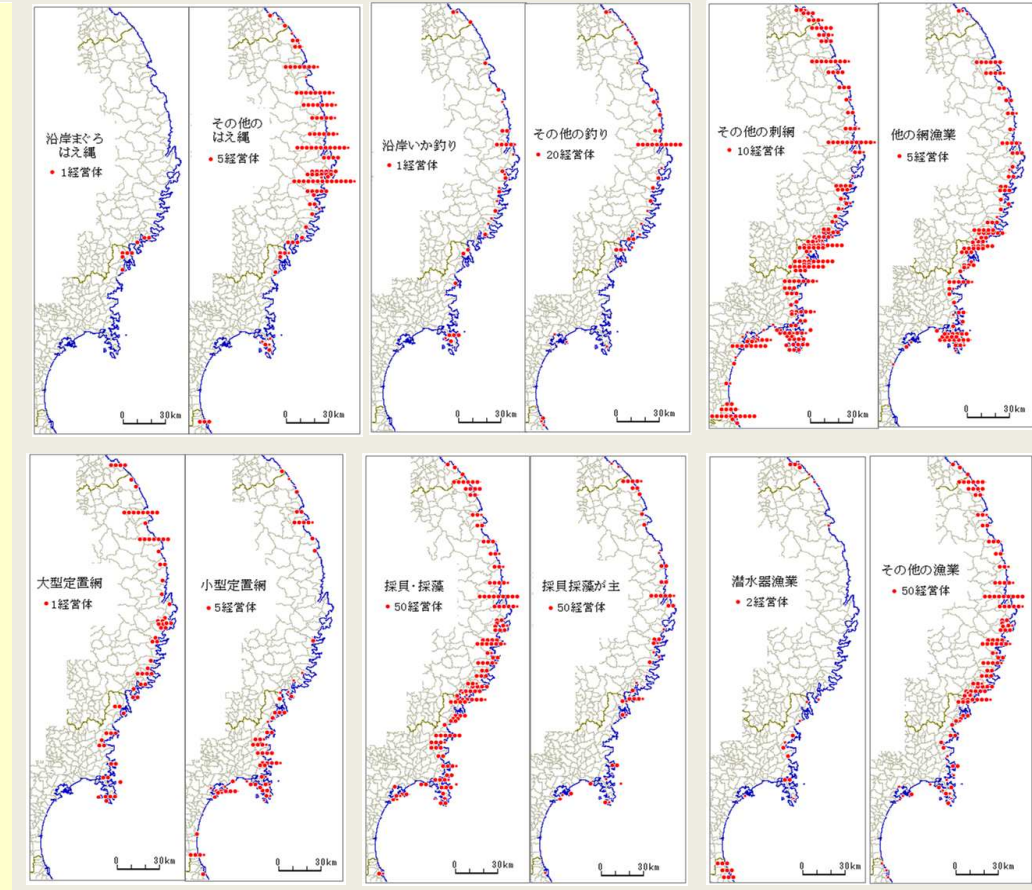


(1)対象範囲:津波被害の中心となった八戸～相馬間を対象。海岸線の特徴から、宮古より北の隆起海岸、宮古湾から牡鹿半島にかけてのリアス海岸、そして砂浜海岸の仙台湾岸に3分される。

(2)長期趨勢:対象地域の大半を含む岩手・宮城両県の趨勢をみると、漁業経営体、就業者とも減少が著しく、担い手の高齢化も進行している。しかし縮小は主に沖合・遠洋部門で、養殖など沿岸漁業と漁業専業層はむしろ増加傾向にもあった。漁業就業者の高齢化も確実に進行した。



(3)基本構造:
右図は、海面養殖、他の沿岸漁業、中小漁業、大規模漁業の4階層別の経営体数構成を示した。ここから漁業経営の基本構造が把握できる。すなわち、①内湾に恵まれた山田湾から松島湾にかけては日本を代表する養殖地帯であること、②宮古以北、七ヶ浜以南は養殖以外の沿岸漁業が主であること、③内湾に恵まれなくても普代や重茂のように養殖を主とする地区もあること、④大規模漁業層からわかるように、八戸、宮古、釜石、気仙沼、女川、石巻、塩釜が拠点港として立地していること、が把握できる。



海面養殖の種類別経営体数	主とする		宮んだ	
	岩手	宮城	岩手	宮城
きんざけ	78		79	
ひらめ				2
その他の魚類	1	6	5	15
かき類	574	372	1,049	654
その他の貝類	426	809	618	1,114
ほや類	10	6	41	26
ほや類	39	196	262	548
他の水産動物	2	4	14	11
こんぶ類	268	63	720	202
わかめ類	1,000	611	1,647	1,108
のり類	2	221	6	225

